

Ⅰ. 生活科学研究科・生活科学部の一年（2004・1・1～2004・12・31）

（1）生活科学研究科・生活科学部の教育

◆平成15年度生活科学研究科前期博士課程の修了状況

平成15年度の前期博士課程の修了者は総計63名であった。（表1）

表1 平成15年度 前期博士課程修了状況

	前期博士課程
食・健康科学コース	13
居住環境学コース	21
総合福祉科学コース	5
臨床心理学コース	8
長寿社会食生活学コース	2
居住福祉工学コース	5
長寿社会福祉科学コース	9
合 計	63

なお、前期博士課程学生の修了後の進路については以下の通りである。

<食・健康科学コース>

進学0名（本研究科0名、本研究科外0名）、教員0名、公務員3名、病院0名、企業7名、自営業0名、未定2名、無職1名

<居住環境学コース>

進学3名（本研究科内2名）、教員0名、公務員3名、企業9名、自営業2名、未定1名、設計事務所3名

<総合福祉科学コース>

進学3名（本研究科内3名）、教員0名、公務員0名、企業2名、無職0名

<臨床心理コース>

進学1名（本研究科内1名）、教員1名、病院等0名、不明0名、公務員5名、企業1名

<長寿社会食生活学コース>

進学2名（本研究科内1名、本研究科外1名）、公務員0名、教員0名、企業0名

<居住福祉工学コース>

進学1名（本研究科内1名）、公務員1名、企業3名、その他0名、無職0名

<長寿社会福祉科学コース>

進学5名（本研究科内3名、本研究科外2名）、教員1名、公務員0名、未定2名、その他1名

◆平成16年博士学位取得状況

平成16年（2004・1・1～12・31）に博士の学位を取得した者は11名で、その概要は以下の通りである。（表3）

表3 平成16年博士学位取得状況

氏名	主査	副査	種類	論文タイトル
	西成勝好	中谷 延二 山口 英昌	課程	多糖類(澱粉およびカードラン)の諸特性 澱粉糊の粘弾性に及ぼす呈味物質とカードラン水懸濁 液のゲル化機構
	中谷延二	西成 勝好 湯浅 勲	課程	ボタンボウフウ(<i>Peucedanum japonicum Thunb.</i>)の 葉に含まれる成分及び酸化抑制因子の化学構造と機 能の解明
	中谷延二	湯浅 勲 山本由喜子 藤本 繁夫	課程	長時間の定常負荷運動時の近赤外分光法による筋肉 酸素動態に関する研究
	湯浅 勲	中谷 延二 山本由喜子	課程	月見草種子抽出物のマウスエールリッヒ腹水ガン細胞 に対する抗ガン作用メカニズムに関する研究
	佐藤昌子	永村 一雄 宮野 道雄 川瀬 徳三 (京都工芸繊維大)	課程	染色布の紫外線遮蔽性能に関する研究 橘 ゆかり
	中谷延二	山口 英昌 山本由喜子	課程	抗酸化活性評価法の確立とカレーリーフ(<i>Murraya koenigii</i>)成分の抗酸化活性
	北浦かほる	富樫 穎 宮野 道雄	課程	動く遊具の揺れの分析とデザインに関する研究 —シーソー・ロッカー(Seesaw Rocker)のデザインと検証—
	松島恭子	岩堂美智子 新平 鎮博	論文	「自己愛」についての臨床心理学的研究 —「自己愛スペクトル」と心理治療技法の開発—
	白澤政和	畠中 宗一 山縣 文治	論文	日本と韓国における大都市在宅高齢者のソーシャルサ ポートに対する選考:その構造及び関連要因の比較
	中谷延二	西成 勝好 曾根 良昭	論文	ブルーン(<i>Prunus domestica L.</i>)の機能性成分に関す る研究
	谷 直樹	多治見左近 藤田 忍 藤田 治彦 (大阪大学大学院)	課程	近世住宅の儀式空間における障屏画による「しつらい」 に関する史的 research

◆平成15年度生活科学部の卒業状況

平成15年度の生活科学部卒業者数は、総計119名であった。(表4)

表4 平成15年度 生活科学部卒業者数

食品栄養科学科	31
居住環境学科	40
生活環境学科	3
人間福祉学科	45
合 計	119

学部卒業生の進路状況は以下の通りである。

<食品栄養科学科>

進学3名(本研究科1名、本研究科外2名)、公務員7名、財団等0名、企業17名、未定2名、無職2名

<居住環境学科・生活環境学科>

進学20名、(本研究科15名、本研究科外5名)、公務員2名、企業13名、留学2名、自営業0名、未定4名、無職1名、設計事務所1名

<人間福祉学科>

進学11名(本研究科5名、本研究科外6名)、公務員(教員含む)10名、社会福祉施設・団体等8名、企業7名、留学0名、無職2名、未定7名(大学院進学準備4名)

◆平成16年度生活科学研究科入学状況

平成16年度の大学院入学については前期博士課程は8月入試と2月入試（再募集）を行い、後期博士課程は2月入試を行った。入学者は、前期博士課程が定員48名に対して63名であり、その内で留学生は6名であった。一方、後期博士課程は定員が21名に対して16名であり、その内で留学生は6名あった。

◆平成16年度生活科学部の入学状況

平成16年度の学部入学については、前期日程、後期日程、推薦入試を行った。前期日程では合格者数が96名で、競争率は食品栄養科学科が4.3倍、居住環境学科が4.6倍、人間福祉学科が3.5倍であった。後期日程では合格者数は20名で、競争率は食品栄養科学科が10.0倍、居住環境学科が19.7倍、人間福祉学科が12.6倍であった。推薦入試では7名が合格した。なお、留学生は9名の志願者があったが、1名が合格した。その結果、合計で定員115名に対して、留学生1名を含めた122名が入学した。（表7）

表7 平成16年度 生活科学部 志願者・入学者数

	前期日程				後期日程				推薦入試				留学生				合計			
	定数	志願者数	合格者数	入学者数	定数	志願者数	合格者数	入学者数	定数	志願者数	合格者数	入学者数	定数	志願者数	合格者数	入学者数	定数	志願者数	合格者数	入学者数
食品栄養科学科	23	104	24	24	5	60	6	6	2	10	2	2		2	0	0	30	176	32	32
居住環境学科	34	166	36	35	6	118	6	6	3	8	3	3		1	1	1	43	293	46	45
人間福祉学科	34	127	36	35	6	101	8	8	2	10	2	2		6	0	0	42	244	46	45
合計	91	397	96	94	17	279	20	20	7	28	7	7		9	1	1	115	713	124	122

◆高校生向けオープンキャンパス

生活科学部は8月3・4日に平成16年度オープンキャンパスを実施し、学科説明会以外に、食品栄養科学科は学科相談会と施設見学会、居住環境学科はミニ講義と施設見学会、人間福祉学科はコース別説明会と学科展示会を催した。学科説明会に参加した高校生等は、食品栄養科学科が460名、居住環境学科が370名、人間福祉学科が600名で、総計1430名であった。(表8)

表8 平成16年度オープンキャンパス参加者数

<食品栄養科学科>

日時		開催内容		延参加人数
8月3日(火)	午前の部	学科説明会	10:00~11:00	260
		施設見学会	11:00~12:00	200
	午後の部	施設見学会	14:00~15:00	180
			3日合計	640
8月4日(水)	午前の部	学科説明会	10:00~11:00	200
		施設見学会	11:00~12:00	160
	午後の部	施設見学会	14:00~15:00	140
			4日合計	500

<居住環境学科>

日時		開催内容		延参加人数
8月3日(火)	午前の部	ミニ講義	10:00~11:00	180
		学科説明会	11:00~12:00	200
	午後の部	施設見学会	14:00~15:00	140
			3日合計	520
8月4日(水)	午前の部	ミニ講義	10:00~11:00	150
		学科説明会	11:00~12:00	170
	午後の部	施設見学会	14:00~15:00	120
			4日合計	440

<人間福祉学科>

日時		開催内容		延参加人数
8月3日(火)	午前の部	展示会	10:00~12:00	190
	午後の部	学科説明会	14:00~15:30	350
			3日合計	540
8月4日(水)	午前の部	展示会	10:00~12:00	140
	午後の部	学科説明会	14:00~15:30	250
			4日合計	390

<生活科学部>

日時	開催内容	延参加人数
8月3日(火)	学部説明会	500
	学科説明会	810
	施設見学会等	890
		2200
8月4日(水)	学部説明会	350
	学科説明会	620
	施設見学会等	710
		1680

(2) 生活科学研究科・生活科学部の研究

◆平成16年度文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」について

大学の個性化・多様化や国際競争力の強化が求められる中、大学における教育の質の充実、人材の育成は重要な課題である。本プログラムは以上を目的として特に優れた教育プロジェクトを選定し、財政援助を行うものである。本研究科は、[隣接する福祉ゾーンとの連携による地域貢献—「地域センター」を核とした教育拠点の形成—]というテーマで応募し、ヒアリングまで進んだが、採択には至らなかった。

◆市立大学内の競争的資金の採択による研究実施状況

本研究科では以下の研究が採択され、研究を進めている。

<重点研究>

平成16年度継続（研究期間：平成15～19年度(予定)）

研究代表：西成勝好「高齢社会における食品のおいしさ、食べやすさの解明と健康科学に関する研究拠点の形成—食品多糖類の物性・生理活性研究とその人間栄養学への応用—」

（研究費：平成16年度 12,500千円） PD 1名・RA 1名 配属

<新産業創生研究>

平成16年度継続

研究代表：宮野道雄「地震時の家屋倒壊・家具転倒による身体損傷度測定用人体ダミー開発」

研究期間：平成15年度—17年度

平成16年度配分研究費0円（累積額：3,000千円） RA 1名 配属

<都市問題研究>

平成16年度継続（研究期間：平成14年度～16年度）

宮野道雄：「虚弱高齢者に対する健康教育政策と生活支援のあり方に関する総合的研究—大阪市を中心として—」

（研究費：平成16年度3,300千円 累積額：15,160千円）

平成16年度継続（研究期間：平成15年度～17年度）

中井孝章「大都市圏における子どもの生活問題と生活改善のあり方に関する総合的研究」

（研究費：平成16年度3,900千円 累積額：85,800千円）

平成16年度新規採択（研究期間：平成16年度～18年度）

曾根教授「都市の伝統的生活文化が痴呆の進行防止・改善に及ぼす効果について」

（研究費：平成16年度3,000千円）

平成16年度新規採択（研究期間：平成16年度～18年度）

白澤政和「大阪市における地域ケアシステムの再検討」

（研究費：平成16年度3,000千円 大阪市より3,000千円 累積額：6,000千円）

◆平成16年度文部科学省科学研究費補助金交付状況（研究代表者分のみ）

平成16年度の文部科学省科学研究費補助金について、生活科学研究科では研究代表者分のみで継続を含め25件が採択され、今年度の配分額は96,376千円（間接経費12,630千円含む）となった。その内訳は、基盤研究(A)が3件、基盤研究(B)が6件、基盤研究(C)が7件、萌芽研究が3件、若手研究(B)が5件、特別研究員奨励金が1件である。（表9）

表9 平成16年度科学研究費補助金採択状況

研究種目	研究代表者	配分額(千円)	研究課題
		平成16年度	
基盤(A)	宮野道雄	11,600	高齢者の自立を目指す地域生活システム構築への生活科学的 研究—環境適応能に着目して
基盤(A)	曾根良昭	12,10	人の消化管活動の日内及び年間変動についての比較研究— 大都市と地方都市—
基盤(A)	佐伯茂	18,400	遺伝因子と環境因子に対する脂質代謝機構の生理的多型性 に関する生理人類学的解析
基盤(B)	白澤政和	4,600	ソーシャルワークにおけるアセスメントと援助計画に関する 理論的・実践的研究
基盤(B)	西成勝好	6,200	嚥下困難度の評価法の確立と嚥下困難者用とろみ剤の開発
基盤(B)	富樫穎	2,700	大都市に居住する虚弱高齢者の健康維持方策と生活支援の あり方に関する総合的研究
基盤(B)	中井孝章	5,900	大都市圏に暮らす子どもの生活問題と生活改善のあり方に関 する総合的研究
基盤(B)	山縣文治	2,100	地域子育て支援の推進にかかわる住民主体活動の果たす役 割に関する研究
基盤(B)	春木敏	2,100	ライフスキル形成に基礎をおく包括的な食生活教育プログラ ムの開発
基盤(C)	小伊藤亜希子	1,300	子どもの家庭生活の実態からみる男女共同参画社会におけ る子育て支援の課題
基盤(C)	森一彦	500	情報(視覚・聴覚)障害者の探索行動からみた情報保障環境 に関する研究
基盤(C)	要田洋江	600	ジェンダーの視点から見た障害者の自立と親の自立に関する 社会学的研究-思春期・自立期の親子関係をめぐって-
基盤(C)	菊崎泰枝	700	オールスパイスの抗酸化特性とその活性発現因子の解明
基盤(C)	山本由喜子	700	ネギ属野菜類の高血圧・動脈硬化症に対する防御効果と加熱 調理の影響
基盤(C)	谷直樹	1,300	歴史系博物館における建築史関係の展示及び活動に関する 調査研究
基盤(C)	湯浅勲	1,900	食用植物成分による生活習慣病予防機序の解明とその応用 戦略に関する研究
萌芽研究	上田博之	500	バリアフリーからバリアコントロールへ—生活文化を考慮 した高齢者住宅のあり方の研究
萌芽研究	曾根良昭	600	音楽聴取は人の消化管活動に影響するか？
萌芽研究	宮野道雄	2,500	生理反応を考慮した地震時の身体損傷度測定用ダミーの開 発に関する基礎的研究
若手研究(B)	清水由香	1,146	精神障害者当事者参加型の地域精神保健福祉システムのあ り方に関する研究
若手研究(B)	荻布智恵	700	ヒトの消化管活動及び代謝調節機構に影響する食事・環境 要因と発現機序の解明
若手研究(B)	西岡基	1,500	交通車両内における高齢者や障害者の機能性に配慮した設 備のあり方に関する研究
若手研究(B)	金東浩	1,900	リポタンパク質受容体に関与する多様な細胞機能の分子機構解 明
若手研究(B)	木村佳代	1,100	小児期発症1型糖尿病患者の合併症に関する疫学的研究
特別研究員 奨励金	高橋亮	1,100	新規水溶性多糖の有効利用に関する研究
合計		83,746	

◆平成16年外部競争研究資金の採択による研究状況

平成16年に外部の競争研究資金が採択されての研究状況は9件であり、以下のような研究を行った。(表10)

表10 平成16年外部競争研究費採択状況

研究代表者	研究テーマ	資金提供団体・機関	研究期間	平成16年度 配分研究費 (累計額)
小西洋太郎	国産キノアの開発と食品成分に関する研究	(財)すかいらーく フードサイエンス研究所	2004・4～ 2005・3	2,200,000
白澤 政和	ケアマネジメントの評価研究—利用者とコストの両面から	(財)三菱財団	2003・5～ 2005・5	3,800,000
白澤 政和	ソーシャルワークとケアワークの役割葛藤と倫理的ジレンマに関する研究	社会福祉試験・振興センター	2004・1～ 2005・3	1,500,000
山縣 文治	地域における子どもと家庭に関する相談支援体制のあり方に関する研究	厚生労働科学研究費	2004・4～ 2006・3	4,000,000
森 一彦	従来型施設における痴呆性高齢者環境支援指針の適用による環境改善手法の開発と多面性評価	厚生労働科学研究費	2004・4～ 2005・3	1,500,000
坂口 正之	障害者プラン、それに基づく行政サービス等の評価指標に関する研究	厚生労働科学研究費	2003・4～ 2005・3	4,500,000
檜谷美恵子	「場」に着目した住宅困窮概念と支援方策に関する国際比較研究	(財)住宅総合研究財団	2004・6～ 2005・10	1,070,000
西成 勝好	カテキン類と多糖類との分子間相互作用の解明と新食感を持つ「緑茶ゼリー・緑茶ドリンク」の創造	(社)京都府茶業会議所	2004・4～ 2005・3	2,000,000
佐伯 茂	日本型食生活の栄養学的考察:植物性タンパク質によるコレステロール代謝調節の分子機構	(財)飯島記念食品科学振興財団	2004・4～ 2005・3	1,500,000

◆研究科長裁量経費による研究

今年度も「生活科学研究助成」の募集が行なわれた。これは、研究科長裁量経費の一部を研究科教員に重点的に配分し、「生活科学分野での研究を推進する」ことを目的とした研究助成制度として平成14年度に発足したものである。初年度には7件の応募があり、5件が採択され、総額3,670千円が研究助成として当てられた。また、平成15年度には4件の応募があり、3件が採択された。この研究助成は総額2,750千円であった。平成15年度採択の3件については、研究成果報告会が平成16年6月29日に生活科学部会議室で行なわれた。

平成16年度の「生活科学研究助成」については6件の応募があり、3件が採択された。研究助成としては、総額2,780千円が当てられた(表11)。なお、審査は研究科長と評議員2名からなる選考委員会が担当した。選考の評価基準項目は、1)生活科学研究への貢献性、2)研究の先駆性、3)研究成果の社会的効果、4)その他(科学研究費の評価点、研究実績、アピール性等)である。

また、生活科学研究科学術講演会が、学術情報総合センターにおいて平成16年3月9日に実施された。演題は、「家族と家事 —20世紀日本の食をめぐる—」(演者:国立民俗学博物館名誉教授 石毛直道)であった。

表11 平成16年度生活科学研究助成の採択プロジェクト

研究課題	研究代表者	共同研究者	配分決定額 (円)
アマランスおよびキノア穀粒の脂質成分の健康機能性に関する基礎研究	小西洋太郎	小島 明子	900,000
線虫(Caenorhabditis elegans)を用いた老化制御食品探索実験系の構築	西川 禎一	菊崎 泰枝	950,000
都市環境に配慮した高反射率塗料による熱負荷軽減技術の開発・評価	酒井 英樹	永村 一雄 長井 達夫 土井 正	930,000

◆平成16年度受託研究実績調（市大後援会）

平成16年に受託研究の実施件数は35件であり、受託費の総額は40,403千円であり、以下のような受託研究を行った（表12）。

表12 平成16年度受託研究実績調

番号	題 目	担 当	受 託 費	契 約 先
			(総額)	
1	プルーン(<i>Prunus domestica</i> L)の抗菌性に関する研究 (継続) H15.4.1～H16.3.31	西川 禎一	1,050,000	三基商事(株) 代表取締役 門田 敏量
2	清掃用品のユニバーサルデザイン化に関する人間工学的研究 H15.6.1～H16.5.31	岡田 明	525,000	(株)スパン開発 研究所 所長 西村 晴夫
3	TACC配合茶の運動時エネルギー代謝量に対する効果 H15.6.1～H16.3.31	曾根 良昭	800,000	武田食品工業(株) 取締役社長 長峯 興治
4	ポリサッカライドの研究 H15.4.1～H16.8.31	西成 勝好	8,336,210	日本リーバ(株) 代表取締役 赤岩 覺
5	室内温熱環境の快適性に関する生体計測研究 H15.6.16～H16.3.31	岡田 明	945,000	(株)きんでん 京都研究所 第二研究開発部長 中尾 俊夫
6	食品製造工場の衛生改善と食中毒防止の為に具体的 対策の指導 H15.7.1～H16.6.30	西川 禎一	525,000	サトウフロンティア(株) 代表取締役兼執行役員 社長 重里 欣孝
7	視覚的・触覚的質感と材料特性に関する研究 H15.7.18～H16.2.29	佐藤 昌子	1,207,500	トヨタ自動車(株) 代表者 江崎 研司
8	マウス操作における最適姿勢の検証 H15.7.1～H15.12.31	岡田 明	105,000	(株)トキビル 中央研究所 取締役所長 氏家 克己
9	天然抗酸化剤の高機能開発検討 H15.4.1～H16.3.31	中谷 延二 菊崎 泰枝	500,000	三菱化学(株)アミノアイル部門 食品機能材部 代表者 内藤 明
10	誘電電気泳動法による細菌濃縮のためのエレクトロ デポジション電極付マイクロチップの開発 H15.4.1～H16.1.31	西川 禎一	1,050,000	アリアケル(株) 代表者 竹内 昭
11	梅の機能の検討 H15.8.1～H16.7.31	平井 和子	800,000	(株)東農園 代表取締役 東 善彦
12	建物被害程度別死傷条件の明確化他2件 H15.8.22～H16.2.10	宮野 道雄	2,835,000	筑波大学社会工学系教授 研究班 座長 熊谷 良
13	プルーン (<i>Prunus domestica</i> L)に含まれる生理活性 物質の精査研究(継続) H15.11.1～H16.10.31	菊崎 泰枝	1,050,000	三基商事(株) 代表取締役 門田 敏量
14	変角光度計による髪ツヤ計測評価 H15.12.1～H16.11.30	西川 禎一	1,050,000	松下電工(株)電器 R&Dセンター 代表者 山田 信彦
15	超臨界炭酸ガスによる食品殺菌装置の開発 H15.12.1～H16.3.31	西川 禎一	500,000	(株)タクミナ 代表者 山田 信彦
16	食品物性と嚥下適性に関する研究 H16.1.15～H17.1.14	西成 勝好	577,500	明治乳業(株)研究本部 栄養科学研究所 所長 矢島 高二
17	家事、調理機器・設備の使いやすさに関する研究 H15.11.10～H16.6.30	岡田 明	735,000	松下電器産業(株) 松下ホームソリューション社 副社長 石井 良夫
18	痴呆症対応のケアマネジメント手法の基礎研究 H15.10.1～H16.10.31	白澤 政和	5,000,000	(株)コッセイ基礎研究所 所長 正田 文男
19	マンゴージンジャーの機能性成分の解明 H16.1.5～H16.12.31	菊崎 泰枝	600,000	丸善製薬(株) 代表取締役 日暮 彰文
20	暖冷房の快適性等評価手法に関する大阪・名古屋地 区被験者実験 H15.12.8～H16.3.12	永村 一雄	1,365,000	(財)パターニング 理事長 北島 照躬
21	講義用チェアの座り心地比較による検証 H16.4.1～H16.9.30	岡田 明	157,500	(株)トキビル 中央研究所 取締役所長 氏家 克己
22	プルーン (<i>Prunus domestica</i> L) の抗菌性に関する 研究(継続) H16.4.1～H17.3.31	西川 禎一	1,050,000	三基商事(株) 代表取締役 門田 敏量
23	TACC配合茶のエネルギー代謝量に対する効果 H16.5.1～H17.3.31	曾根 良昭	600,000	武田食品工業(株) 取締役社長 長峯 興治

番号	題 目	担 当	受 託 費	契 約 先
			(総額)	
24	竹に含まれる機能成分の解明 H16.6.1～H17.5.31	菊崎 泰枝	1,260,000	(株)アドテックス 代表取締役 清岡 久幸
25	キッチン作業の身体負荷に関する研究 H16.4.22～H16.7.30	岡田 明	735,000	松下設備システム(株) 代表取締役社長 間 政二
26	高齢者にとって「優しく」「懐かしい」献立、弁当の主観的・客観的評価法による検討 H16.6.1～H17.3.31	曾根 良昭	700,000	(株)ニチダン 代表取締役 笠原 力一
27	目的別、使用者別の座り心地の考え方を解明し、解決策を検討する。(その1) H16.6.1～H17.3.30	岡田 明	525,000	(株)トキビル 中央研究所 所長 野瀬 憲治
28	食品製造工場の衛生改善と食中毒防止の為の具体的な対策の指導 H16.7.1～H17.6.30	西川 禎一	525,000	サトウシステム(株) 製造部統括 マネージャー 乾 謙一
29	カラヨモギの機能成分の解析 H16.7.1～H17.6.30	菊崎 泰枝	840,000	阪本薬品工業(株) 代表取締役社長 阪本 稜雄
30	家事、調理機器・設備機器への使いやすさに関する研究 H16.7.1からH17.1.31	岡田 明	735,000	松下電器産業(株) ホームプライツ社 技術本部 くらし研究所 所長 宮井 真千子
31	黒ショウガ成分の構造解明 H16.7.1～H17.6.30	菊崎 泰枝	525,000	大洋香料(株) 代表取締役社長 宮脇 英昭
32	旬の食材を活用したメニュー開発(監修) H16.10.1～H17.9.30	菊崎 泰枝	1,200,000	(株)オ大阪支店 取締役支店長 平田 譲
33	食品マイクロロイドに関する基礎研究 H16.10.1～H17.9.30	西成 勝好	1,050,000	三栄源エフ・エフ・アイ(株) 代表取締役会長兼社長 清水 孝重
34	アミノ酸・コラーゲンの合成とその細胞内コラーゲン産生能に関する研究 H16.10.1～H17.3.31	湯浅 勲(他2名)	525,000	(株)ビー・ラボラトリーズ 代表取締役 田中 義信
35	Agイオンの抗菌メカニズムに関する研究 H16.12.1～H17.3.31	西川 禎一	420,000	シャープ(株)技術本部 デバイス技術研究所 所長 種谷 元隆
計		35件	40,403,710	

◆研究に関わる受賞状況

受賞者氏名：井川 憲男

受賞名：2004年日本建築学会賞(論文)

受賞対象：「太陽放射に起因する昼光と日射の設計用データの標準化に関する一連の研究」

◆都市問題研究「都市の伝統的生活文化が痴呆の進行防止・改善に及ぼす効果について」の研究集会

5月29日に(土)に第1回研究集会が行われた。演題は、「回想法の基本的理解－痴呆性高齢者と回想法－」(演者：岩手県立大学 社会福祉学部 福祉臨床学科教授 野村豊子)であった。

◆国際交流の状況

①海外との交流

○重点研究「高齢社会における食品のおいしさ、食べやすさの解明と健康科学に関する研究拠点の形成」の日蘭大学院生国際交流セミナーの開催

12月15・16日 大阪市立大学大学院生活科学研究科・オランダ ワーゲニンゲン大学食品化学研究室による「食品科学セミナー」が開催された。

大学院生の学術的な国際交流を目的としたセミナーを開催し、72名(うちオランダから28名)が参加し、本研究科の後期博士課程の6名と、ワーゲニンゲン大学食品化学研究室の後期博士課程の8名が、食品科学に関わる研究発表を行った。来学されたのは大学院生25名(内フランス人3、中国人1、スペイン人1、ドイツ人1)と教授(ペクチンなど多糖類の研究での世界的権威のFons Voragen博士)1名、助教授2名である。

Gruppen博士によるワーゲニンゲン大学食品化学研究室の紹介、ハンブルク大 Hans Steinhart教授（昨年、本学食品化学研究室に交換教授として滞在）の講演があり、続いて、オランダ側、日本側から大学院生による研究発表がなされた。活発な質疑応答がなされ、国際的な意見交換をした。



○12月22日 大韓民国の「Chung-Ang University College of Human Ecology」部所長のKyung Hee Rhee 教授（Director, Institute of Human Ecology）をはじめとする教員15名で当研究科の教育プログラムの概要説明・施設見学会の開催による研究・教育について懇談

②海外出張状況

整理番号	所属専攻	職	氏名	出張期間	主張先	用件
1	食・健康科学	助手	金 東浩	16.9.2 ～ 16.9.10	フランス	第8回国際細胞生物学会年会に出席・発表及び研究打ち合わせのため
2	食・健康科学	教授	西成勝好	16.9.13 ～ 16.11.12	フランス	パリ市工業物理化学高等学院の熱物理学研究室のM. ジャプロフ教授との共同研究
3	食・健康科学	教授	湯浅 勲	16.11.11 ～ 16.11.17	アメリカ合衆国	第3回栄養の作用メカニズムに関する国際会議に出席のため
4	食・健康科学	助教授	佐伯 茂	16.12.5 ～ 16.12.10	アメリカ	第44回アメリカ細胞生物学会年会に出席・発表及び研究打ち合わせのため
5	食・健康科学	助手	金 東浩	16.12.5 ～ 16.12.10	アメリカ	第44回アメリカ細胞生物学会年会に出席・発表及び研究打ち合わせのため

③海外渡航状況

整理番号	所属専攻	職	氏名	渡航期間	渡航先	用件
1	食・健康科学	教授	西成勝好	16.3.26 ～ 16.4.7	中華人民共和国	上海交通大学の張 洪斌助教授と共同研究についての打合せ
2	食・健康科学	教授	湯浅 勲	16.4.16 ～ 16.4.22	アメリカ合衆国	Experimental Biology 2004(アメリカ栄養科学会議)に出席・発表
3	食・健康科学	講師	小島明子	16.4.16 ～ 16.4.22	アメリカ合衆国	Experimental Biology 2004(アメリカ栄養科学会議)に出席・発表
4	食・健康科学	教授	西成勝好	16.6.13 ～ 16.6.20	ポーランド	第7回澱粉国際会議に出席・発表（基調講演）をおこなう
5	食・健康科学	講師	小島明子	16.11.11 ～ 16.11.17	アメリカ合衆国	第3回栄養の作用メカニズムに関する国際会議に出席のため

◆客員研究員(客員教授・助教授等)の受け入れ状況

氏名	現職	研究題目	研究期間	共同研究者
武政 誠	早稲田大学 理工学総合研究センター客員研究員	カラギーナンゲルの構造と物性	H15.5.1 ～ H16.3.31	西成 教授
船見 孝博	三栄源エフ・エフ・アイ(株)第一研究部 ハイドロコロイド研究室マネージャー	ハイドロコロイドによる澱粉の加工特性の制御	H15.6.1 ～ H16.5.31	西成 教授
小澤 温	東洋大学社会学部社会福祉学科 教授	障害者ケアマネジメントの総合的な推進体制のあり方と評価に関する研究	H15.6.1 ～ H16.3.31	白澤 教授
植中 詠子	アリオテクノ株式会社 衛生管理コンサルタント	食品の製造・流通現場における衛生指標菌の迅速自動検査装置の開発—位相差顕微鏡による総菌数のリアルタイム監視—	H15.6.1 ～ H16.3.31	西川助教授
松田 祐介	関西学院大学理工学部生命科学科 助教授	エネルギー代謝に関する遺伝子の検索	H15.6.1 ～ H17.3.31	佐伯助教授
栢野 新市	三基商事株式会社 研究開発本部係長	ブルーン(<i>Prunus domestica</i> L.)に含まれる機能性成分の解明	H15.7.1 ～ H16.6.30	中谷 教授
尾立 純子	大阪市立環境科学研究所附設栄養専門学校 副主幹	青年層を取り巻く食生活実態と健康指針・評価等に関する研究	H15.7.1 ～ H16.6.30	湯浅 教授
松浦 照二	大日本明治製糖株式会社 研究開発部・研究開発室	キノアの血中コレステロール上昇抑制効果について	H15.7.1 ～ H16.3.31	小西助教授
鶴田 裕美	三基商事株式会社研究開発統括部 総合研究所研究員	ドライブルーンに含まれる抗菌成分の分析	H15.7.1 ～ H16.3.31	西川助教授
武田 鉄郎	独立行政法人 国立特殊教育総合研究所 病弱教育研究部 主任研究官	慢性疾患児の自己管理支援のための教育的対応に関する研究	H16.4.1 ～ H17.3.31	新平 教授
蓮間 忠芳	四天王寺国際仏教大学 保健科 教授	食品成分の生理作用メカニズムの解析	H16.4.1 ～ H17.3.31	湯浅 教授
亀井 正治	大阪市立環境科学研究所 副主幹	ニンジン葉抽出物の生理作用とその有効利用	H16.5.1 ～ H17.4.30	湯浅 教授
植中 詠子	アリオテクノ株式会社 衛生管理コンサルタント	食品の製造・流通現場における衛生指標菌の迅速自動検査装置の開発—位相差顕微鏡による総菌数のリアルタイム監視—	H16.5.1 ～ H17.3.31	西川助教授
鶴田 裕美	三基商事株式会社研究開発統括部 総合研究所研究員	ドライブルーンに含まれる抗菌成分の分析	H16.5.1 ～ H17.3.31	西川助教授
船見 孝博	三栄源エフ・エフ・アイ(株)第一研究部 ハイドロコロイド研究室担当課長	食品多糖類の分子特性と機能性に関する研究	H16.7.1 ～ H17.6.30	西成 教授
尾立 純子	大阪市立環境科学研究所附設栄養専門学校 副主幹	青年層の食生活における適正な亜鉛摂取量とその方法	H16.7.1 ～ H17.6.30	湯浅 教授 小島 講師
栢野 新市	三基商事株式会社 研究開発本部係長	ブルーン(<i>Prunus domestica</i> L.)に含まれる機能性成分の解明	H16.7.1 ～ H17.6.30	菊崎助教授
川西 正子	常盤会短期大学 幼児教育科 講師	雑穀及びその関連食品の特性とその栄養学的考察—小児に対する栄養学的考察を中心として—	H16.7.1 ～ H17.6.30	小西助教授
久本 雅嗣	山梨大学大学院 医学工学総合研究部 助手	タイ王国産植物に含まれる抗菌性化合物の探索	H16.8.1 ～ H17.7.31	菊崎助教授
鄭 載 旭	昌原大学校社会科学部 行政学 科 教授	日・韓の老人福祉制度に関する比較研究—介護保険制度の導入背景と決定要因を中心として—	H16.10.1 ～ H17.9.30	白澤 教授

◆自己評価の状況

①全教員、研究科(学部)、学科、コース(講座)についての自己点検の実施

- ・教員の自己点検内容—教育、研究、社会貢献

- ・ 研究科（学部）の自己点検内容—教務、入試、学生の就職・進学、国際化
- ・ 学科・コース（講座）の自己点検内容—教育、研究、社会貢献、就職、入試
- ・ 研究科（学部）、学科、コース（講座）の自己点検結果を『大阪市立大学・大学院 生活科学研究科 自己点検（内部資料）』として刊行（10月）

②全教員の自己評価・外部評価の実施（研究・教育）

- ・ 11月末までに各個人の（1）「教員の個人調書」、（2）「教育研究業績書」、（3）「代表的論文・著書5編」、（4）「研究活動のまとめ」、（5）「教育業績」に加えて、5月に作成した自己点検票を外部評価者に提出
 - ・ 12月より1月末にかけて外部評価者（個々の教員に2名の外部評価）に評価を依頼
- 2004年に外部評価結果を全教員に伝達および報告書を作成予定

(3) 生活科学研究科・生活科学部の社会的貢献

◆大阪市立大学文化交流センターの講座

生活科学研究科・生活科学部担当『住みつづけるための都市と住まい』

多治見左近：6月3日「都市居住の過去と将来 ―大阪の都市居住―

西岡基夫：6月10日「都市居住のバリアと改善」

渡部嗣道：6月17日「都市住宅の維持管理保全」

竹原義二：6月24日「建築は生きている ―サステナブルな建築」

◆生活科学研究科の学外ゼミナール

谷 直樹：大阪市立大学大学院居住環境学ゼミナール「住まいの歴史～中世編」

場 所：大阪市立住まい情報センター

4月11日「源氏物語と寝殿造の暮らし」137名

4月25日「書院造は和風住宅のルーツ」133名

5月9日「天下人の住まい―城大工の技」129名

5月23日「城郭建築の見方、調べ方」127名

6月6日「大阪城の建築調査」100名（現地見学）

主 催：大阪市立大学大学院生活科学研究科・大阪市立住まい情報センター・大阪市立住まいのミュージアム

◆児童・家族相談所の相談業務概況報告

児童・家族相談所ではとくに心理相談部門を中心とした相談業務が前年度からの継続ならびに新規ケースを対象に行われた。平成15年度の面接件数は129件、延べ面接回数は1,558件であった(2003.4～2004.3)。相談内容は前年度に引き続き、乳幼児の子育て支援活動・発達障害の心理相談・学校不適應への心理相談ならびに各事例の親カウンセリングなどであった。グループ相談と個別相談が行われ、母子並行面接も数多く行われた。専門機関との提携による発達障害児心理相談の専門窓口の立ち上げがなされ、文部科学省の発達障害児に関する試案(小・中学校におけるLD(学習障害)、ADHD(注意欠陥/多動性障害)、高機能自閉症の児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン)に対して、大阪市としての迅速な臨床相談の対応を行ったといえる。また、平成16年度4月1日から新たに「児童・家族相談所臨床心理士」(非常勤嘱託)1名が着任し相談業務の充実が図られた。